

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 (しらかば)	評価実施年月日	平成20年2月21日
評価実施構成員氏名	五十嵐 釜 尾山 山崎 古瀬 今泉 谷向 山本 岡林		
記録者氏名	五十嵐 強	記録年月日	平成20年2月22日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念がある。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念はホーム内に掲示している。そして、この理念に向い、職員で取り組んでいる。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>日々の活動を通して、理解していただけるように努力している。また、地域やご家族からの協力も得ている。</p>		<p>日々の活動を通じてだけでなく、運営推進会議の場でも、理念を伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>開設から半年を過ぎ、近所の方から花を植えていただいたり、野菜を頂くなど色々な協力があり、近所から遊びに来てくれる方もいる。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>参加できる行事には参加させていただいている。</p>		<p>将来的には、能動的にもっと貢献できるよう、今以上に地域の行事等に参加していきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>現在のところ積極的な取り組みは行っていないが、地域の高齢者が遊びに来てくれる場には徐々になってきている。</p>		<p>今後も、よりいっそう地域の高齢者が立ち寄りやすい場になるよう努力したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議は、今までの工夫が不足しているために報告会と なっている。事業者として、もっと参加、発言で気安い雰囲気 を作るよう努力していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない 要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の制限は無いので、利用者様が外部者に訴える機会を奪わないようにしている。管理者や職員に何らかの要望があった場合は、それに応えるよう努力している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にホーム便りを発行し、ご家族が遠方の場合等には、手書きの手紙により様子を伝えている。また、ご家族の面会時にも、個々に報告するよう心がけている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どのようなご意見でも、話し合い運営に反映させるよう心がけている。実際にご家族からの意見によって改善された点もある。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に、管理者は個人面談等で職員の意見を聞き、反映できる部分に関しては反映させる努力をしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	限られた職員で全ての状況に対応することは困難だが、例えば病院への受診が必要な場合や行事には、必要な職員数を確保するよう調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は原則行わないようにしているが、退職や新規採用時には、それによって利用者にはダメージがないよう全体でフォローし配慮するよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人の研修は毎月行っている。外部の研修は、今までは札幌などの遠隔地での研修が多く、勤務者確保を前提とするとなかなか参加できなかった。</p>	<p>釧根グループホーム協議会に加入し、近隣での研修の情報も得ることができるようになり、外部の研修を受講できる機会が増えた。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同町のグループホームとは共同で勉強会も行っており、可能な限り情報交換も行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>決して充分な広さとは言えないかもしれないが、休憩する場所を確保している。また、定期的に職員で会食等を行い、ストレスを軽減できるよう努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>例えば、介護支援専門員の資格をとり本人にやる気があって適格と判断されれば、計画作成担当者として更に重要且つ責任ある職務に就けるように考えている。</p>	<p>将来的にはパート職員に対しても、資格手当等支給や、正職員の条件を明確にし(例えば資格や経験年数)、実績評価制度を取り入れることも検討していく必要がある。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にできるだけ本人に会い、話をする中で求めている事を事前に把握するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談、入所日には、出来るだけ話す機会を持つ様にしている。また、いつでも相談が出来るよう、管理者は24時間つながる連絡先を伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の相談員等とも連携をとり、その様に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の決定した方には原則管理者がお会いさせていただき、必要と思われる方にはホームの雰囲気などをお話し、希望される方には予め見学もさせていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事、畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来ることに応じて、可能な限り主体的に生活して頂くよう支援し、これらを通じて職員も毎日一緒に喜怒哀楽を共にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごしていただけるよう支援することで、ご家族様が本人を支えていく関係を保つことができると考え、その様に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	項目28と同様に、ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごしていただけるよう支援することで、ご家族様と本人がよりよい関係を継続できると考え、その様に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は原則制限しておらず、知人や友人が訪ねてくることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他人同士が一つの住居に住むため、中には孤立しがちになる方もいらっしゃるが、全員が楽しく暮らせるよう職員が中に入り配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、入院先などに面会に行ったり、遊びに来てくれたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その様に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	遠隔地にご家族がいらっしゃる場合など、プランに対しての意見を積極的に話し合うことが少ない。		遠隔地にご家族がいらっしゃる場合でも、意見を伺うような機会を作っていくよう努力する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その様に努めている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各種の記録を日々記入し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院の受診、ご家族が出来ない場合は各種手続きも利用者様を支援する形で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアは定期的に訪問してくれている。社会福祉協議会にも多くの場面で支援していただいている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要があればその様に支援している。現在は外来リハビリに通っている方がいる。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターといつでも相談できる関係で、相談しやすい。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	原則、本人のかかりつけ医があれば、引き続きその関係を支援させていただく。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の院長が認知症には詳しく、常に相談できる体制になっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人の訪問看護師、外来看護師、病棟看護師長には気軽に相談でき、利用者の状態や個別的なことも知ってくれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療が必要な部分については本人の個別状況をよく説明した上で医療機関に委ねるが、入院中の不安解消や、退院してもホームで医療上の不安が出来るだけ少なくなるよう各機関の協力を得ることで、早期退院の支援をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りは本人、ご家族が希望された場合で、ホームで対応可能な場合は看取りも行うとしており、実際に看取らせていただいたこともある。しかし、医療行為など出来ない場合もあり、対応できない場合もある。重度化された場合にも、医療機関の支援を受け対応している。		看取りを行うには、制度や法律上限界があると思うが、そうしたなかでも希望される方の意向に出来るだけ沿えるよう、看取りのマニュアル作りや体制作り、職員の教育を行っていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期には、医療機関と連携をとってチームケアを行える体制になっている。看取りも経験している。		介護職しかいないため、また、訪問看護ステーションと契約していても事実上24時間いつでもサポートを受けることは困難であるため、吸引が必要な方や、褥創のある方等には対応出来ない場合がある。このような方への支援をどうするのか、療養型病院が同法人にあるのでそのメリットを活かせるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	その様な場合にはそう努めたい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシー確保は、馴染みの関係が出来るほど侵されやすいと考えており、その点について都度配慮するよう注意している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	介護の場面場面で選択していただける様な声かけや関わりをする様努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員のみが行う業務の簡素化、短縮化により、できるだけ利用者様とゆったりと関わるよう工夫しており、一人一人のペースを大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容室は本人の行きつけの場所がある場合はお連れしている。おしゃれもその方が希望するものを選べるよう配慮している。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方にあわせ、調理、配膳、後片付けを一緒に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコはきめられた場所で吸っていただくが、禁止はしていない。その他のものも規制はしていないが、病気や栄養状態には配慮している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけオムツは使用せず、使用するにしても時間や種類などを慎重に検討したうえで、過剰なオムツは使用しないように配慮している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ユニットにお風呂は1箇所だけのため、全ての方が毎日希望される時間に入浴することは困難だが、希望されれば毎日でも入浴できるし、出来るだけ希望される時間に入っていたらよいよう努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、それぞれが自分のリズムで就寝できるようにしている。また、日中から適度な運動と、夕方以降は過度な照明にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や畑など、役割を持てるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自分で管理されている方もおり、それを職員で支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	戸外に出ることは少なくなりがちではあるが、散歩やドライブには不定期で行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで、温泉や硫黄山、摩周湖など要望が多い場所に出かける支援をしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はホームの電話が使えるようにしている。文通している方もいる。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会の制限はしていないので、訪問してくれる方は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どんな場合でも身体拘束は行わないことを目標にし、勉強会を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はしておらず、その他入浴と排泄の支援時にプライバシー保護の観点から一時的に脱衣場とトイレの施錠をすることはあるが、職員が管理上等の理由で施錠することはしない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーへの配慮と同時に安全を確保することはとても難しいことではあるが、コールマットなどを利用しながら、必要以上にプライバシーを侵すことなく安全に配慮するよう努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状態を観察させていただいた上で、危険が無いと判断した場合には、ハサミ、包丁なども利用者様から取り上げるような場所には置いていない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は必ず報告し、対策を検討している。		ヒヤリハットがもっと報告され、事故に至る前に防ぐことができるよういっそう取組んでいきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	最低2年に1回の割合で、消防署や看護師から心肺蘇生法を学ぶ機会を作っている。		心肺蘇生法だけでなく、誤嚥などの緊急時対応も、研修などで学ぶ機会を作る。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。		実際の災害では、職員だけで避難誘導するのは限界があり、地域の方々に災害時の協力をお願いし、その方法を相談させていただく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに、予測され且つ危険性の高いリスクに関してはお伝えするよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>介護職が必要な薬の知識を勉強会等で学んでいる。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染対策の勉強会を毎年行い、外部への研修にも積極的に参加する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生に関してのマニュアルがあり、実行している。また、賞味期限が切れたものは使用していない。賞味期限が無いものは、充分チェックした上で使用し、少しでもいたみの可能性があれば使用しないようにしている。		現在中国製の食材も使用しないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームの周囲に花を植えるなどして、親しみやすい環境をつくるよう配慮している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節によって装飾を替えたり、茶の間と食堂は、白色とやわらかいオレンジ色を時間によって使い分けている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	茶の間と食堂が別になっており、思い思いに過ごせるような空間になっている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人の物を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様をお願いしており、持ち込んでいただいている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気は定期的に行い、室温は蓄熱式の暖房器具のため操作が難しいが、配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>設計時からこの点には配慮してきたが、身体状況によっては、風呂場の手摺が足りないと感じることもある。</p>	<p>手摺をつけることが出来ない場所もあるが、可能な限り設置する方向で業者と検討する。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>病気による混乱を招かないよう、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外は、広場や畑があり、散歩などを楽しむことができる。しかし、現在、茶の間からウッドデッキへ通じるドアは危険が大きく、開かないようになっている。</p>	<p>せっきある茶の間から外への通路を、安全に利用できる方法を検討、工夫していく。</p>



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2/3くらい            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

現在の新築に引っ越す前のハード的に問題が多かったホームでは、急な階段で外に出ることも少なく、遮断された厨房では一緒に調理することも少なかったのですが、環境が変わり、家事や手工芸など、利用者様が主体的に生活する場面がとて多くなり、散歩にも出かけやすくなったため、外出の機会も増えました。

そして、法人の病院のバックアップがあり、ご家族も安心していただけていると思います。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 (はるにれ)	評価実施年月日	平成20年2月28日
評価実施構成員氏名	五十嵐 伊藤 栗田 佐々木 上原 二瓶 岩佐 長谷川		
記録者氏名	五十嵐 強	記録年月日	平成20年2月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念がある。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念はホーム内に掲示している。そして、この理念に向い、職員で取り組んでいる。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>日々の活動を通して、理解していただけるように努力している。また、地域やご家族からの協力も得ている。</p>		<p>日々の活動を通じてだけでなく、運営推進会議の場でも、理念を伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>開設から半年を過ぎ、近所の方から花を植えていただいたり、野菜を頂くなど色々な協力が有り、近所から遊びに来てくれる方もいる。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>参加できる行事には参加させていただいている。</p>		<p>将来的には、能動的にもっと貢献できるよう、今以上に地域の行事等に参加していきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>現在のところ積極的な取り組みは行っていないが、地域の高齢者が遊びに来てくれる場には徐々になってきている。</p>		<p>今後も、よりいっそう地域の高齢者が立ち寄りやすい場になるよう努力したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議は、今までの工夫が不足しているために報告会となっている。事業者として、もっと参加、発言で気安い雰囲気を作るよう努力していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の制限は無いので、利用者様が外部者に訴える機会を奪わないようにしている。管理者や職員に何らかの要望があった場合は、それに応えるよう努力している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にホーム便りを発行し、ご家族が遠方の場合等には、手書きの手紙により様子を伝えている。また、ご家族の面会時にも、個々に報告するよう心がけている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どのようなご意見でも、話し合い運営に反映させるよう心がけている。実際にご家族からの意見によって改善された点もある。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に、管理者は個人面談等で職員の意見を聞き、反映できる部分に関しては反映させる努力をしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	限られた職員で全ての状況に対応することは困難だが、例えば病院への受診が必要な場合や行事には、必要な職員数を確保するよう調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は原則行わないようにしているが、退職や新規採用時には、それによって利用者にはダメージがないよう全体でフォローし配慮するよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人の研修は毎月行っている。外部の研修は、今までは札幌などの遠隔地での研修が多く、勤務者確保を前提とするとなかなか参加できなかった。</p>	<p>釧根グループホーム協議会に加入し、近隣での研修の情報も得ることができるようになり、外部の研修を受講できる機会が増えた。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同町のグループホームとは共同で勉強会も行っており、可能な限り情報交換も行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>決して十分な広さとは言えないかもしれないが、休憩する場所を確保している。また、定期的に職員で会食等を行い、ストレスを軽減できるよう努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>例えば、介護支援専門員の資格をとり本人にやる気があって適格と判断されれば、計画作成担当者として更に重要且つ責任ある職務に就けるように考えている。</p>	<p>将来的にはパート職員に対しても、資格手当等支給や、正職員の条件を明確にし(例えば資格や経験年数)、実績評価制度を取り入れることも検討していく必要がある。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>そのように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談、入所日には、出来るだけ話す機会を持つ様にしている。また、いつでも相談が出来るよう、管理者は連絡先を伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の相談員等とも連携をとり、その様に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の決定した方には原則管理者がお会いさせていただき、必要と思われる方にはホームの雰囲気などをお話し、希望される方には予め見学もさせていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事、畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来ることに応じて、可能な限り主体的に生活して頂くよう支援し、これらを通じて職員も毎日一緒に喜怒哀楽を共にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごしていただけるよう支援することで、ご家族様が本人を支えていく関係を保つことができると考え、その様に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	項目28と同様に、ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごしていただけるよう支援することで、ご家族様と本人がよりよい関係を継続できると考え、その様に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は原則制限しておらず、知人や友人が訪ねてくることもある。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他人同士が一つの住居に住むため、中には孤立しがちになる方もいらっしゃるが、全員が楽しく暮らせるよう職員が中に入り配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、入院先などに面会に行ったり、遊びに来てくれたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その様に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	遠隔地にご家族がいらっしゃる場合など、プランに対しての意見を積極的に話し合うことが少ない。		遠隔地にご家族がいらっしゃる場合でも、意見を伺うような機会を作っていくよう努力する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その様に努めている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各種の記録を日々記入し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院の受診、ご家族が出来ない場合は各種手続きも利用者様を支援する形で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアは定期的に訪問してくれている。社会福祉協議会にも多くの場面で支援していただいている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要があればその様に支援している。現在は外来リハビリに通っている方がいる。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターといつでも相談できる関係で、相談しやすい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	原則、本人のかかりつけ医があれば、引き続きその関係を支援させていただく。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の院長が認知症には詳しく、常に相談できる体制になっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人の訪問看護師、外来看護師、病棟看護師長には気軽に相談でき、利用者の状態や個別的なことも知ってくれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療が必要な部分については本人の個別状況をよく説明した上で医療機関に委ねるが、入院中の不安解消や、退院してもホームで医療上の不安が出来るだけ少なくなるよう各機関の協力を得ることで、早期退院の支援をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りは本人、ご家族が希望された場合で、ホームで対応可能な場合は看取りも行うとしており、実際に看取らせていただいたこともある。しかし、医療行為など出来ない場合もあり、対応できない場合もある。重度化された場合にも、医療機関の支援を受け対応している。		看取りを行うには、制度や法律上限界があると思うが、そうしたなかでも希望される方の意向に出来るだけ沿えるよう、看取りのマニュアル作りや体制作り、職員の教育を行っていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期には、医療機関と連携をとってチームケアを行える体制になっている。		介護職しかいないため、また、訪問看護ステーションと契約していても事実上24時間いつでもサポートを受けることは困難であるため、吸引が必要な方や、褥創のある方等には対応出来ない場合がある。このような方への支援をどうするのか、療養型病院が同法人にあるのでそのメリットを活かせるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住替えによるダメージを防ぐこと に努めている。	その様な場合にはそう努めたい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取扱いをしていない。	プライバシー確保は、馴染みの関係が出来るほど侵されやすいと考えており、その 点について都度配慮するよう注意している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている。	介護の場面場面で選択していただける様な声かけや関わりをする様努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している。	職員のみが行う業務の簡素化、短縮化により、できるだけ利用者様とゆったりと関わ るよう工夫しており、一人一人のペースを大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援し、理容・美容は本人の望む店 に行けるように努めている。	理容室は本人の行きつけの場所がある場合はお連れしている。おしゃれもその方が 希望するものを選べるよう配慮している。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片付けをしている。	利用者様が主体的に、調理から一緒に行ってくれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコはきめられた場所で吸っていただくが、禁止はしていない。その他のものも規制はしていないが、病気や栄養状態には配慮している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけオムツは使用せず、使用するにしても時間や種類などを慎重に検討したうえで、過剰なオムツは使用しないように配慮している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ユニットにお風呂は1箇所だけのため、全ての方が毎日希望される時間に入浴することは困難だが、希望されれば毎日入浴も可能で、出来るだけ希望される時間に入らせていただけるよう努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、それぞれが自分のリズムで就寝できるようにしている。また、日中から適度な運動と、夕方以降は過度な照明にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や畑など、役割を持てるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自分で管理されている方もおり、それを職員で支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日利用者様が誘い合って散歩に出ており、それを見守り等で支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで、温泉や硫黄山、摩周湖など要望が多い場所に出かける支援をしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はホームの電話が使えるようにしている。文通している方もいる。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会の制限はしていないので、訪問してくれる方は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どんな場合でも身体拘束は行わないことを目標にし、勉強会を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はしておらず、その他入浴と排泄の支援時にプライバシー保護の観点から一時的に脱衣場とトイレの施錠をすることはあるが、職員が管理上等の理由で施錠することはしない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーへの配慮と同時に安全を確保することはとても難しいことではあるが、コールマットなどを利用しながら、必要以上にプライバシーを侵すことなく安全に配慮するよう努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状態を観察させていただいた上で、危険が無いと判断した場合には、ハサミ、包丁なども利用者様から取り上げるような場所には置いていない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は必ず報告し、対策を検討している。		ヒヤリハットがもっと報告され、事故に至る前に防ぐことができるよういっそう取組んでいきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	最低2年に1回の割合で、消防署や看護師から心肺蘇生法を学ぶ機会を作っている。		心肺蘇生法だけでなく、誤嚥などの緊急時対応も、研修などで学ぶ機会を作る。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。		実際の災害では、職員だけで避難誘導するのは限界があり、地域の方々に災害時の協力をお願いし、その方法を相談させていただく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに、予測され且つ危険性の高いリスクに関してはお伝えするよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化を見逃さぬよう、発見した場合にはリーダー、管理者へ報告するようにしている。夜間であっても重大と思われる場合はリーダー、管理者へ連絡することになっている。</p> <p>また、月に2回の往診、訪問看護による月2回以上の健康チェックも行っている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員の全てが薬について理解しているとはいえない。薬に関して問題があると思われる場合には、リーダー、管理者へ連絡することになっている。</p>	<p>介護職が必要な薬の知識を勉強会等で学んでいる。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>運動、水分、食物繊維の摂取は積極的に促しており、牛乳やヨーグルトも個々に合わせ利用している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの支援を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立を作る際に栄養バランスを考えて作っている。水分も、1日800cc以下であれば報告し摂取を促している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり、これを実行している。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生に関してのマニュアルがあり、実行している。また、賞味期限が切れたものは使用していない。賞味期限が無いものは、充分チェックした上で使用し、少しでもいたみの可能性があれば使用しないようにしている。		現在中国製の食材も使用しないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームの周囲に花を植えるなどして、親しみやすい環境をつくるよう配慮している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節によって装飾を替えたり、茶の間と食堂の照明は、白色とやわらかいオレンジ色を時間によって使い分けている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	茶の間と食堂が別になっており、思い思いに過ごせるような空間になっている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人の物を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様をお願いしており、持ち込んでいただいている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気は定期的に行い、室温は蓄熱式の暖房器具のため操作が難しいが、配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>設計時からこの点には配慮してきたが、身体状況によっては、風呂場の手摺が足りないと感じることもある。</p>	<p>手摺をつけることが出来ない場所もあるが、可能な限り設置する方向で業者と検討する。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>病気による混乱を招かないよう、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外は、広場や畑があり、散歩などを楽しむことができる。茶の間から中庭へ通じるウッドデッキがあり、雪で閉ざされる期間以外は職員の見守りで自由に楽しめるようになっている。</p>	<p>外へ出ることが比較的簡単なので、行方不明や外での事故に繋がらないようにセンサー等で見守りができるように配慮している。</p>

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><del>毎日ある</del>            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p><del>ほぼ全ての家族</del>            家族の2/3くらい            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p><del>ほぼ毎日のように</del>            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <del>少しずつ増えている</del> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	＜ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	＜ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	＜ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎日散歩を促し、時には全員で1時間以上散歩することもあります。また、ラジオ体操が習慣になっており、体を動かす機会を出来るだけ多く持つように支援しています。食事の後片付け当番は、利用者様たちが自分達で決めて行ってくれています。中庭の畑は、野菜や花の知識の乏しい職員に代わって、種の購入から植えて収穫までほとんど全てをやって教えていただきました。友人知人の訪問も多く、職員とも冗談を言い合い、とても明るい雰囲気です。そして、法人の病院のバックアップがあり、ご家族も安心していただけていると思います。